

樹 妙 ば よ う

No.164
2018.06



花祭りの花見堂
(4月10日)

慈悲喜捨

心理学者であるアルフレッド・アドラーは、幼い頃に病気で生死の境をさまよい、更に、一歳の弟を亡くするという体験をしました。それらの影響から医師となり、後にアドラー心理学の理論を生み出しました。

アドラー心理学の特徴は、「私たちの悩みはすべて対人関係の問題である」ということです。人や物との係わりが、社会で生活していくためにあるのなら、そこから生じる悩みは全て対人関係の問題であると考えます。また、人は過去の「原因」によって動かされるのではなく、今の「目的」に沿って生きていくという、「目的論」の立場をとっています。たとえば、「子どものころに虐待を受けたから、社会でうまくやれない」と考えるのがフロイトの原因論ですが、「社会に出て他者と関係を築きたくないで、子どものころに受けた虐待の記憶を持ち出す」と考えるのがアドラーの目的論です。「人生はいつでも選択が可能です、過去に辛いことがあっても、これからどう生きるかには関係がない」と考え、「人は変われないのではなく、変わらないという気持ち

ちを強く持っている」「幸せを実感できない人に足りないものは、能力や恵まれた環境ではなく、変わることに（幸せになること）に必要な『勇氣』である」と言っています。

これまでの心理学は、何か問題が起きたら、その原因を探り、それを取り除くことで問題が解決できると考えました。しかし、アドラー心理学では、何か問題が起きたら、それは何らかの目的を果たすために行われたと考えます。そして、喧嘩の理由でさえ、「自身自身の怒りを解消する」という目的のために「相手を攻撃した」と考え、思考や行動は、どのような目的に向かっているのかによって変わるという「未来志向」を持っています。

アドラー心理学は仮説に過ぎないと言う人もいます。しかし、樹徳高校の教育方針と同様に、「一度しかない人生を、自らの勇氣を育てて大切に生きてほしい」「人のために行動することは、価値があるということを実感してほしい」という願いが込められているように思います。

本校の生活の基本である「明るく・正しく・睦まじく」を実践して、よりよく生活しましょう。

教頭 金安伸一

良き人に近づけば

樹徳中学校・高等学校校長

野口 秀樹



皆様には日頃から大変お世話になってましてありがとうございます。六月から衣更え。制服の夏冬併用期間が終了しました。夏服は樹徳生らしく美しく着て欲しいのであります。

五月は授業参観、後援会総会などで保護者の皆様に足を運んで頂きありがとうございました。

出来上がった共生図書館、校内コンビニなど、ご覧頂けたかと思えます。共生図書館は十九時半まで開館しておりますが、高校生が毎日のように活用してくれております。

また先日行われた高校総体、厳しい戦いの連続でありましたが、各クラ

ブとも頑張りました。結果は男子総合七位、女子二十二位、関東大会にも五部活参加いたします。関東でも選手達は大暴れしてくれることだと思います。

今月は三年生の三者面談や全県一斉のマナーアップ運動、月末には期末試験も行われます。今月もよろしく願います。

「よき人に近づけば
覚えざるによき人となるなり」

これは道元禅師の言葉ですが、考えさせられますね。私の周りにはどんな人達が集まっているのか。「類は友を呼ぶ」こんな言葉もありました。

道元禅師（一二〇〇年～一二五三年）については高校生時代、日本史の授業で学んだことと思います。鎌倉時代の新仏教を支えた内の一人で、坐禅で有名な、福井県の永平寺を建てた和尚さんです。宗派で言いますと曹洞宗を開いた人です。

この方は中国に渡り、中国禅を学び、師僧から特別に教えのお墨付きをもらいました。著書は『正法眼蔵録』、日本を代表する美しい文章で書かれていると評価されている書物です。私も読みましたが私には難しすぎます。とにかく立派な和尚さまで、弟子達に素晴らしい言葉を沢山残しています。

そのお弟子さんが師匠の道元禅師の言葉を記した『正法眼蔵随聞記』を書きました。その中にあった言葉です。正式にはこんな文章です。

「二日示に云く、古人云く、霧の中を行けば覚えざるに衣しめる。よき人に近づけば、覚えざるによき人となるなり。」

昔、俱胝（ぐてい）和尚に仕へし一人の童子のごとは、いつ学びし、いつ修したりとも見えず、覚えざれども、久参に近づいしに悟道す。」

意味は、「ある日、道元禅師が示して言われ

た。昔の人が言っている。霧の中を歩いていると、知らないうちに着ている物がぬれている。これと同じように、よき人に近づくと、自分でも気付かないうちによき人になるという。

俱胝和尚に仕えていた子ども、いつ修行したのか、わからないけれども、知らないうちに長い間修行した人と一緒にいたので、悟りを開いた。」というものです。

この考え方を進めていくと、悪しき人に近づけば、気がつかないうちに、影響を受けていく。と言うことも充分考えられます。であるならば、教師として生徒達にとって「善き人になりたい」と思うのは私だけではありません。

この様な言葉もあります。

「会う人を変えようと人生が変わる、読む本を変えようと人生が変わる。」

この言葉にも私は同感するので。四十才に

なった頃、私は突然読書を始めました。本を読むことが楽しくて、寝る時間を惜しんで本を読みました。すると不思議なのですが、良書がドンドン私の目の前に現れ出したのです。今度は、知らないうちに私の生き方が変わりはじめた。

ここから何が始まったかというと、出会う人達が変わってきたのです。良き人の縁はさらに良き人への出会いを結んでいったのです。

お陰様で未熟な私でもそのつど新たな教えを受け、壁を乗り越えることができました。こんな経験をしてきましたので、道元禅師の事が良く理解できるのです。

先ほども申しましたが、生徒達にとって善き人になりたいと思いますし、霧の中を行けば覚えざるに衣しめるの如く、樹徳の校風を更によくしていきたいと思えます。

合掌

みんなで見える夢は 現実になる

ジョン・レノン

努力の経験

もう六月。今年は早くから異様に暑い日が多い。この先どのような気候になるのだろうか、心配である。

六月といえば梅雨。本来ならば、気温はそれほどではなくても、湿気が多くジメジメとした、あまり快適ではない日が続くのが梅雨時だ。しかし、多くの生徒たちにとっては「六月イコール梅雨」ではない。三年生にとって、六月は、「部活動を終える日」を迎える月なのだ。

野球は夏、ラグビーやサッカーは冬と、部によって異なるが、全般的には、六月のインターハイ予選で、部活動最後の大会となる者がほとんどである。三年間、中学時から競技を続けてきた者は六年間。中には、小学校、もっと以前から頑張ってきた者もいる。

これから先も、続けることもあるかもしれないが、多くの者にとって、自分が長く続けてきた競技の、一つの大きな区切りとなるのだ。

競技とは運動だけではない。文化部にも様々な競技があり、みな同様に打ち込んでいる。その思いは、身体的な活動量の多い少ないは関係ないだろう。みな自分の選んだ競技に、それぞれの思いを全力でぶつけているのだ。

七月に入ると、就職活動が解禁となる。その際、企業から、「部活動をやっていて元気のいい子が欲しい。」とよく言われる。企業が求める人物像は、「明るく活動的で、挨拶がしっかりできる」ということであり、そこには一般的な見方として、「部活動(運動部)＝元気な子」というのがあるのだろう。もちろん運

動部にだっておとなしい性格の者もいれば、身体を動かすこととは無縁の部にだってアクティブな者はいらる。要は本人次第なのだが、部活動、特に運動部の者のほうが、企業の覚えがめ度たいというのはあると思う。

就職のために部活動を、などというのは動機が不純だが、そのことは別にしても、やはり部活動はやるに越したことはない。身体機能の強化、他者との連携、また、厳しい練習環境の中での忍耐力、しつけや礼儀など。このように書くとき体育会系のイメージだが、文化部だって同じだ。文化部ならしつけや礼儀に甘いというのではないし、様々な競技におけるルール内での創意工夫による発想力の強化などは、思考を専らとする。種目ならではの面もある。

何より部活動は、自らの意志で入部するものだ。自分の好きなことを思う存分頑張る、これこそが部活動のもっとも良い部分だと思う。学校という場で、勉強することは必要であるし義務である。そのことは生徒はみな分かっている。しか

し、楽しいと思うのは難しいし、なかなか自発的にできるものでもない。これは事実である。しかし、そんな学校生活の中で、部活動は、自らの意志で、選び、所属するものだ。だからこそ、自主的に練習にも取り組み、それが辛くても頑張れる。

部活動の効用は、これだと思ふのだ。自発的に取り組み、自発的に努力する、大変でも自分で我慢して頑張る。自分で選ぶからこそ、できること。それが自分にだけ多くのかを身に付けさせてくれることか。競技力、技術、知識、そんなものはどうでもいい。そ

れらを自発的に身につけようと努力したことこそが、自分に身に付いた財産だ。部として、競技としての結果は二の次、三の次でいい。好きなことだからこそ、どんなに辛くても打ち込めた、結果が伴わなくても我慢ができたのだ。こうした努力や忍耐の経験が、意識しなくても、自分に定着しているのだ。

(編集子)



桐生錦町一丁目

盛運橋薬局前

■樹徳コミュニティセンター「み法」

6月の行事予定

- (1) ラタンアート工房「桐生籐工芸」
主催 野村ナナ子さん 12, 26日(火)
- (2) 木彫り個展
主催 茂呂居實さん 7日(木)～10日(日)
- (3) 七草ゼミナール塾
主催 上野文雄さん 日程は未定
- (4) 販売実習 16日(土), 17日(日)
 - ①「相田みつを美術館」取扱い商品
 - ②「星野富弘美術館」取扱い商品
 - ③ 東北復興支援商品 (缶詰等)

新入生、宿泊研修に臨む

◆四月十七日（火）から二十日（金）までの日程の中、一年生各クラスを二班に分け、梅田野外活動センターと東毛少年自然の家の二カ所で、新入生宿泊研修が実施されました。
グループエンカウンターや野外炊飯などの各種レク活動を通して過ごす一泊二日は、いわば心の壁の解体工事。研修を終え、自ら作った心の壁がなくなった今、彼らの心にはどんな新しい風が吹いていることでしょうか。



▲樹徳恒例！西山先生のエンカウンター



▲美味しいカレーができました！ 俺のカレー！美味しくできたかな・・・▲



▼緊張が解れて、皆で昼食。



▲エンカウンター▼



▲薪割りにも挑戦！



聖歌隊と学校長が奏でる音楽法要。
本校の宗教的行事でも独自性の強いものです。

現メンバーでは今回が最後となる献灯・献花・献香。
ステージに有終の美を飾ります。↓



中室牧子先生の記念講演
演題
「教育」に科学的根拠を



緑蔭祭

今ある命に感謝。

昭和二十二（一九四七）年、キャサリン台風が来襲し、関東圏に甚大な被害をもたらしました。本校周辺もこの大災害によって深刻な危機に瀕したのです。この時、二代校長である野口健策先生が、身を賭して樹徳教育の再建に携わり、その生涯をかけた実践により、危難を乗り越えました。

今、私たちが生きているのは、太古の昔より受け継がれてきた命のバトンが、一度たりとも途切れたことがなかったからです。そして、そんな私たちを生かしてくれるすべての「いのち」に感謝をし、精一杯生きていくことを誓うことが、緑蔭祭の重要な目的なのです。

高校総体

第53回群馬県高等学校総合体育大会が5月11日～13日（陸上競技は17日～20日）に開催され、本校生が今年も大活躍しました。

相撲

- 団体 優勝（11年連続優勝！）
中野智基 大嶋慧斗 城代竜之介
後藤雅弥 小野里光洋
- 個人
優勝 小野里光洋
2位 中野智基

少林寺拳法

- 男子団体演武 2位
加藤輝 金子善俊 外崎裕真
天笠遼 桑原陸人 光山佳輝
小池偲親 力石魁
- 男子組演武
優勝 加藤輝 外崎裕真
3位 光山佳輝 桑原陸人
5位 天笠遼 古田島司
6位 力石魁 小池偲親
- 女子団体演武 2位
黒澤未有 軍司巴菜 沼尾実季
大友梨聖 渡邊真彩 土門愛莉
久保田有海
- 女子組演武
優勝 軍司巴菜 久保田有海
4位 沼尾実季 黒澤未有

総合開会式では、学校賞表彰が行われ、昨年までの「県総体十年連続優勝」で相撲部が特別優秀学校賞を、「県総体十回目の優勝」で少林寺拳法部女子が優秀学校賞を受賞しました。

卓球

- 男子学校対抗 2位
牛込竜輔 長沼龍之介 池田聡太 市村香多
岡本宗一郎 野村佳希 吉野希望 新井響
- 男子シングルス 優勝 牛込竜輔 3位 長沼龍之介
4位 池田聡太 8位 市村香多
- 男子ダブルス 優勝 牛込竜輔 長沼龍之介
4位 岡本宗一郎 新井響
- 女子学校対抗 2位
木澤朱音 長野瑛留 小林颯夏 大坂愛美
大野愛未 木村奏美 太田采菜 山田真奈美 木嶋美由
- 女子シングルス 2位 小林颯夏 5位 長野瑛留
6位 木村奏美 7位 山田真奈美 8位 木澤朱音
- 女子ダブルス 優勝 木澤朱音 長野瑛留
2位 小林颯夏 大坂愛美

体操

- 個人総合 5位 佐藤朱
- ゆか 3位 佐藤朱
- 跳馬 3位 佐藤朱

第2学年担任紹介

コース	クラス	担任・副担任
総合	J1	石内佐登史
	J2	片岡雅樹・〔副主任〕長谷川幸弘
	J3	大坂亮輔・高田仁世
	J4	松井香保里・根岸清行
	J5	猪熊唯史・佐伯雄二郎
	J6	塚田政利・須藤康雄
	J7	竹澤奈保子・中島弘貴
	J8	松枝翠・渡邊秀明
特進	SS	飯田豊
特進	K1	阿久澤純江
特進	K2	長谷川貴久・〔主任〕新井誠
進学	S1	藤生義教・桜井龍太
進学	S2	関口悠
一貫校	5-1	〔主任〕岡村祐一
	5-2	大堀文夫・須藤喜代子

第二学年 学年目標

○進路の決定と学力
（教養・知識・技術・技能）の向上
○健やかな身体と、健全な判断力を養う

陸上競技

- 男子総合成績 3位
- 男子
100m 2位 師田誠也
200m 2位 師田誠也
800m 優勝 大類康靖
1500m 優勝 大澤佑介
1500m 2位 北村 光
3000m障害 優勝 北村 光
5000m 優勝 大澤佑介
4位 赤坂 匠
4位 高橋陸人
- 女子
棒高跳
砲丸投 2位 小暮未来
円盤投 5位 小暮未来
走高跳 4位 松本りお

一貫校

中学校

だより

志定まれば、気盛んなり

いつの時代にあつても学校は、未来を切り拓く子どもたちの夢にあふれ、自立に向かう子どもたちの豊かな学びや確かな育ちがある場でなくてはならないと思います。また、子どもたち一人ひとりが、人としての生き方について考えを深め、自己を磨き、互いを認め合い、支え合つて生きる、豊かな人間関係を築く場でなければとも思います。

教育は人づくり、教育は子どもたちが輝く未来づくりなどといわれることもあります。ですが、私たち教職員は、校長の意を介して、一貫校に学ぶ子どもたちの中・高六年間の成長を見通しながら、子どもの目線に立った教育を推進し、子ども一人ひとりが輝く学校づくりを目指していきたいと思っています。

一貫校には、強い意志を持った、宝石の原石のよう

な多くの子どもたちが通っています。

高いレベルで文武両道に挑戦する生徒、感性や創造力を高めようとする生徒等、多様な個性が切磋琢磨し、交流し、磨き合うことで、それぞれの原石は、より一層個性のある輝きを放つようになっていくものと確信しています。

志定まれば、気盛んなり

この言葉は、江戸時代末期の長州藩士、吉田松陰が残した言葉として知られています。

目標がはっきりと定まり決心がつけば、気力が自然に満ちあふれてくる。目標が決まれば、意気が高まり、その実現に向けて全力を尽くすことができるという教えです。

今年度、一貫校には二二〇名の生徒が学んでいます。二二〇名分の夢や目標があります。子どもたちには、自分

の目標に向かって主体的に取り組んでいく姿勢を大切にさせ、私たち教職員も一人ひとりの子どもたちの夢の実現に向け、精一杯バックアップしていきたいと思っています。

学校では、保護者の皆様との信頼・連携・協働を大切にしていきたいと思えます。今年度も、保護者の皆様の温かいご支援とご協力をお願いします。

(副校長 澁谷和郎)

◆第一学年山荘合宿

一年生にとつての初の宿

泊行事、梅田野外活動センターでの合宿が五月

八・九日に行われました。

グループエンカウン

ター、校長先生の講話、

散策、飯盒炊飯など、生徒達は楽しそうに二日間

を過ごし、同じ学年の仲間や先生方のことをよく

知ることができました。

(グループエンカウン

ターとは、サイコロトクやジェスチャーゲームなどを通して親密な人間関係を築こうというものです。)



「グループエンカウンターの生徒の感想文」
緑がたくさんある山の中で合宿がスタートしました。一番最初にやったことが星野先生にしていたいたグループエンカウンターでした。この活動ではいつもあまりしゃべらない二組とも楽しく笑顔満点で話すことができました。また、友だちの意外な一面や好きな物を知ることができて本当に良かったと思います。私は合宿に来る前は少し心配で

した。しかし、この活動を通して心が温まり、何だか安心しました。そのおかげで次の活動も仲良く楽しくできました。

一年一組 尾之内菜々子



樹徳中高一貫教育 学校見学会

6/16 (土)

10:00~11:00

(5分前には来校して下さい)

お問い合わせ等は、
前日迄にお電話で。

TEL 0277-45-2257

幼稚園だより

「園生活の安定に向けて」

梅雨は中国から伝わった言葉で、「梅の実が熟す頃に降る雨」という意味です。雨がずっと外で遊ばせんが、子どもたちには、雨が生活に大事な役割をはたすものだということを伝えていきたいと思っています。また、雨音、雨だれ、水たまり、雨上がりの散策など、梅雨ならではの経験を楽しませたいと思います。



大人気 泥んこ遊び

玄関にある水槽のメダカを眺めていたすみれ組（二歳児）の子どもたちが「あった！あった！」「いた！いた！いた！」と、声を出して観察しています。進級・入園から早二ヶ月、園生活に慣れた子どもたちの行動範囲も広がっています。また、園庭にある砂場はいつも大人気で、昼休みになると友達ちと協力し合って、たくさん水を運んで、泥んこプールを作ったり、楽しそうに伸び伸びと遊んでいます。六月は、親子登山、プール、園外保育（昆虫の森）、ジャガイモ掘りと楽しい行事が続きます。梅雨に入りますが、元気に気分を盛り上げていきたいと思っています。

「子どもが輝く支援」

六月は子どもたち一人ひとりの様子が見え、理解が深まる時期で、個々の子どもが持つ課題や要求と、保育者が願う子どもの姿とのずれも明確に

なります。五月から六月は、保護者や保育者の要求に応えようと頑張っていた子どもが、本来の姿を発揮したり、集団への適応に個人差がはっきりしてきます。「安定」の時期を迎えるための配慮を理解していても、結果として制止する言葉掛けや、禁止を強要したくなる時期でもありません。また、園生活に必要な「安定」の時期を迎えられるようにするための、重要な時期となります。「子どもの主体性を大切にする」と、「規範意識の芽生えることがありますが、そのずれを「発達に必要な経験」として認識して、関わり



第1回ボール投げ教室

ることが重要となります。子どもが興味や関心を持ったことに、心から寄り添うことで、よい信頼関係が形成され、その信頼が園生活の安定につながります。さらに、その先の課題を見据えながら、子どもたちが輝くために、園内での保育者同士の連携を密にし、一人ひとりの子どもを、しっかりと支援していきたいと思っています。六月もよろしくお願いいたします。

楽しいぞ！「ボール投げ教室」

体力テスト（小学校）において、ボール投げ能力の低下が問題となっていますが、その背景には、幼少時のボールに触れる機会の減少があると思っています。今年度より月一回（年間十回）の「ボール投げ教室」を、年長・年中さんを対象に実施することになりました。その第一回の教室が五月二十二日に開催され、子どもたちは、ドキドキワクワクしながら楽しく体験しました。幼児期に基本をしっかりと学ぶこ

とにより、体をしならせて投げ出すフォームを身に付けたり、ボール投げ能力の向上をめざして、大いに期待が持てる教室です。第一回は準備運動（バナナ体操・ペッツタン体操）に続き測定を行ったり、マットに膝立てしたり、マットをまたいでのボールを投げる練習を通して、基本を学びました。一回の練習で投げ方のコツをつかんだ子もいて、今後がとっても楽しみです。指導者には、NPO法人「熱いぞ熊谷からの野球教室」代表の長濱茂雄先生他、以前甲子園で大活躍した球児の皆さんです。埼玉県で多くの園児を指導している長濱先生のユーモアある指導に、子どもたちは大喜びで、楽しみながら学ぶことができました。

園長 瀬谷 茂

『入園児募集』

◎満二才から樹徳の幼児教育・保育を！

※連絡先

〇二七七一五三一五五十一
http://www.jutoku.ed.jp/
/kinder

6月(正語)の行事予定

日	曜日	高等学校(本校)	一 貫 校	幼 稚 園
1	金	更衣・夏服指導 前期教育実習開始 貧血検査 小児生活習慣病検診	更衣 前期教育実習開始 英検(4・5級)	衣替え
2	土	漢字検定① 英語検定①一次	英検(2～3級)	
3	日			
4	月	L H R		避難訓練(不審者) 教生受入(～16日) リズム
5	火	後援会執行部会 後援会地区連絡委員会 後援会役員会① 後援会新旧役員懇親会 授業料納入日		保険料納入日 幼交連会議④
6	水	マイトリー基金抛金日 県校長会 3年進研マーク模試(～9日)		県・群私幼主任研修会 英語・文字(年長)
7	木	防火避難・初期消火訓練① 歯科検診④		体育・文字(年中)
8	金	内科検診④ 県高P連総会(～9日) 宗門校長会(～9日)	中学校授業参観日①	プール開き
9	土	漢字検定① 3年学研模試(特別課外補習受講者)		茶臼山親子登山(10:00～13:00)
10	日	日商簿記検定①		
11	月	朝礼 3年J j組三者面談(～15日)		代休(茶臼山親子登山) 預かり保育 教生受入(～7/2)
12	火			読み聞かせ 幼交連会議⑤
13	水			お茶のお稽古② 英語・文字(年長)
14	木	歯科検診⑤ 私学振興会役員会		体育・文字(年中)
15	金	交通安全マナーアップ運動①	交通安全マナーアップ運動① 漢検①	園外保育(昆虫の森)
16	土	GTEC(1～3年進学クラス+希望者)	学校見学会② 卒業生による生き方教室	
17	日	ペン字検定① 第35回吹奏楽部定期コンサート		
18	月	L H R 検尿(予備)		リズム
19	火	七都県高等学校進学問題協議会 食育の日		ジャガイモ掘り 幼交連会議⑥
20	水	大掃除 北関東新任研修(～22日)		英語・文字(年長)
21	木	樹の根の会総会	早朝自主学習(～7/2) 歯科講話(1年)	県教育課程研究協議会 体育・文字(年中)
22	金	関東地区私学保護者会連合会理事会(高崎)		開園記念日(休園日)
23	土	3年進研学力記述模試 1・2年ベネッセ総合学力テスト	数検①	
24	日	全商簿記実務検定①		
25	月	朝礼		リズム
26	火			ボール投げ教室(年中・年長) 読み聞かせ
27	水	中学校長会進路指導部との連絡協議会		年少々・年少保育参観 英語・文字(年長)
28	木	期末試験(～7/3)	期末試験(～7/3)	年中保育参観 体育・文字(年中)
29	金	出欠統計提出 制服アフターサービス		年長保育参観
30	土			

※ 1日は高等学校・一貫校・幼稚園の校内安全点検日です



樹徳高等学校
樹徳中学校
樹徳幼稚園

[Web] www.jutoku.ed.jp [Mail] office@po.jutoku.ed.jp

〒376-0023 群馬県桐生市錦町一丁目1番20号
TEL 0277-45-2258 FAX 0277-47-1671

〒376-0022 群馬県桐生市稲荷町4-12
TEL 0277-45-2257 FAX 0277-45-2262

〒376-0013 群馬県桐生市広沢町三丁目4475
TEL 0277-53-5571 FAX 0277-53-5572

発行責任者 野口秀樹
印刷所 太陽印刷工業株

夢は大きく 根はふかく